

縄文時代中期の大集落～松ヶ崎遺跡～

令和6年10月19日(土) 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

●松ヶ崎遺跡とは？

松ヶ崎遺跡は八戸市中心部から南東約4kmに位置し、新井田川とその支流の松館川に挟まれた、標高27～45mの台地上に立地します。

これまでの調査により、市内最大規模の縄文時代中期の集落跡だったことがわかっています。



調査区遠景(南から)

●第11地点の調査成果(裏図)

現在調査中の第11地点は、令和元年度から調査を始め、今年で調査6年目です。調査対象面積は約8,810㎡で、これまでに約8,554㎡を調査し、

竪穴建物跡や掘立柱建物跡、貯蔵穴や土坑墓、盛土遺構など、縄文時代中期を中心とする多数の遺構がみつかっています。

①長辺約15mの縄文時代の大型竪穴建物跡発見！

調査区の北～西側では、縄文時代の竪穴建物跡が194棟みつかりました。建物の時期は、縄文時代中期中頃から終わり頃までで、中期中頃が多数を占めます。調査区の北側は、元の地表面が見えないほど竪穴建物跡が重なっており、長期間にわたってこの場所で暮らしたことが窺えます。

竪穴建物跡の中には、建物を拡張した痕跡があるものも複数みつかりました。SI103B竪穴建物跡では、長辺約4mの建物が拡張され少しずつ大きくなり、最終的に長辺約15mの建物になっ



SI103B 竪穴建物跡ほか 完掘(南から)

この周辺では建物が密集してみつかりました。SI103B竪穴建物跡では、建物の拡張が少なくとも7度行われ、上から見た形も楕円形から長方形へと変わりました。隣接するSI142竪穴建物跡は長辺約10mで、今回の調査地点の中でも大型の建物ですが、建て替えが行われた様子はみられませんでした。

たことがわかりました。

竪穴建物跡の中には、火事などで焼けた痕跡のある焼失住居がいくつかみつかりました。SI205竪穴建物跡は、床から赤く焼けた土や炭化した木材などが多量に出土する焼失住居で、炭化した木材のほかに、炭化したクリが1か所にまとまった状態でみつかりました。住居が焼けた際、乾燥させて保管していたクリと一緒に焼けたと考えられます。

②その他の遺構

調査区の中央では、縄文時代の掘立柱建物跡が5棟みつかりました。いずれも長軸が北西方向を向いています。

調査区の北側を中心に、貯蔵穴であるフラスコ状土坑が71基みつかりました。この中には、堆積した土の中に土器などの遺物や炭、骨などがまとまってみつかったものもあります。貯蔵穴として使われなくなったあとに、食べかすなどを廃棄したと考えられます。

調査区の西側では長楕円形の土坑が36基みつかりました。ベンガラとみられる赤色顔料や副葬品がみつかったものもあり、墓の可能性が

●おわりに

これまでの調査によって、第11地点における縄文時代中期の集落の様子が少しずつわかってきました。

調査区の西側から北側には多数の竪穴建物跡が、北側と東側にはフラスコ状土坑や土坑墓などがまとまっており、どの遺構も北側に特に集中していることがわかりました。

竪穴建物跡を時期別でみると、縄文時代中期中頃が最も多く、次いで中期後半が多く、中期終わり頃のものはいくつかです。建物の分布を時期ごとで見ると、新しい時期の建物は北側にまとまっています。縄文時代当時は、北から南に向かってゆるやかに下降する地形だったと推測されることから、標高の低い南側から標高のやや高い北側へと、少しずつ集落が移り変わっていったと考えられます。



SI205 竪穴建物跡 炭化クリ集中(東から)
約20cmの範囲から、約2kgもの炭化クリが出土しました。



SK340 土坑墓 赤色顔料検出状況(南から)
長辺約70cm×短辺約40cmと小型の土坑墓から、赤色顔料(白破線部分)がみつかりました。

		北海道西南部～北東北	南東北
約5,900年前	縄文時代前期	：	：
		十和田火山の噴火	
		円筒下層a式	大木2b式
		円筒下層b式	大木3式
		円筒下層c式	大木4式
		円筒下層d式	大木5式
約5,500年前	縄文時代中期		大木6式
		円筒上層a式	大木7a式
		円筒上層b式	大木7b式
		円筒上層c式	大木8a式
		円筒上層d式	
		円筒式上e式	大木8b式
	榎林式	大木9式	
	最花式	大木10式併行	
約4,500年前		：	：

松ヶ崎遺跡の出土遺物の時期

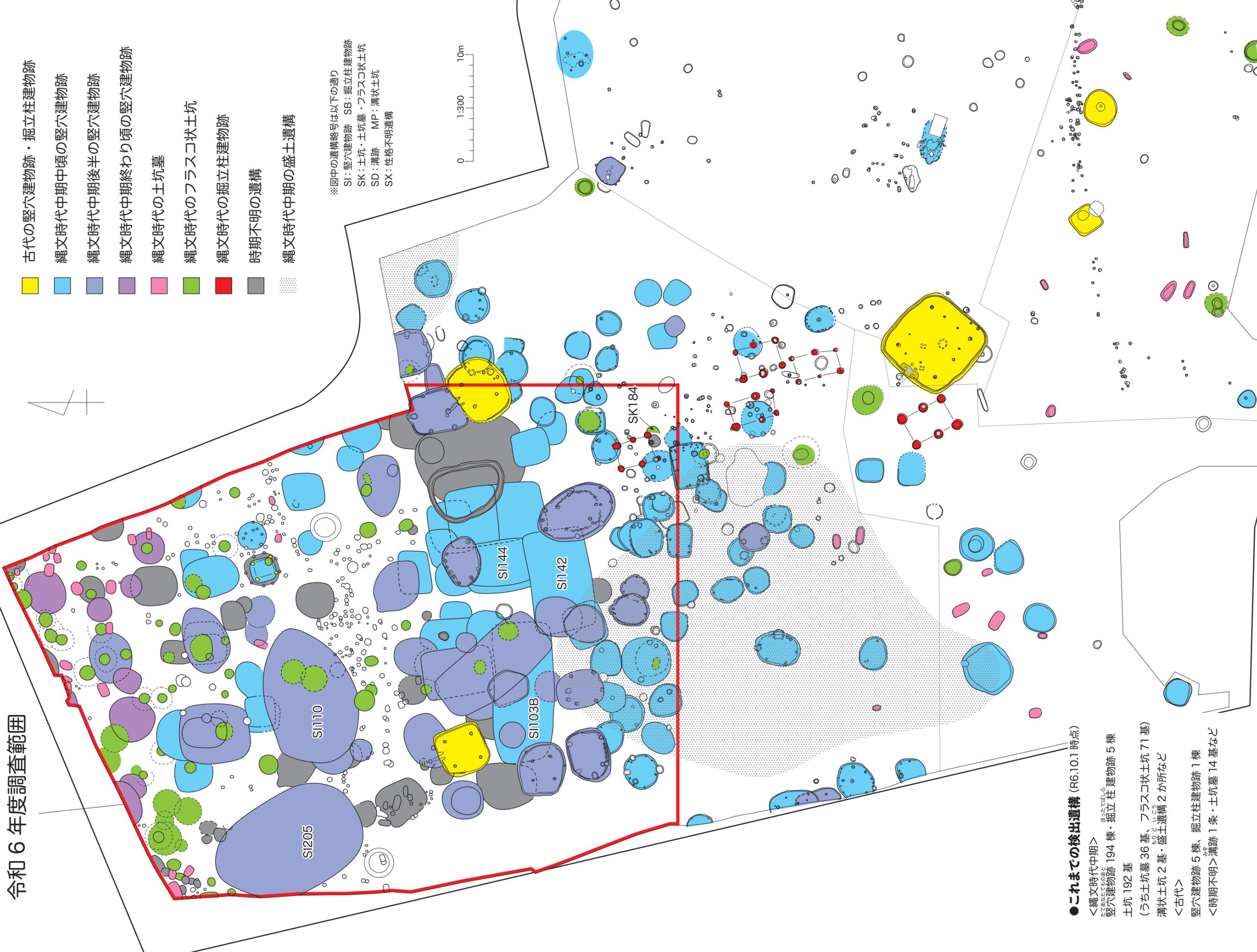
東北地方の縄文時代前中期の土器編年表
(七ヶ浜町歴史資料館企画展図録
「大木式土器の世界」(2018)より一部改変)

令和6年度調査範囲

- 古代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡
- 縄文時代中期中頃の竪穴建物跡
- 縄文時代中期後半の竪穴建物跡
- 縄文時代中期終わり頃の竪穴建物跡
- 縄文時代の土坑墓
- 縄文時代のフラスコ状土坑
- 縄文時代の掘立柱建物跡
- 時期不明の遺構
- 縄文時代中期の盛土遺構

※図中の遺構略号は以下の通り
 SI: 竪穴建物跡 SB: 掘立柱建物跡
 SK: 土坑・土坑墓・フラスコ状土坑
 SD: 溝跡 MP: 溝状土坑
 SX: 性格不明遺構

0 1:300 10m



●これまでの検出遺構 (R6.10.1時点)

- <縄文時代中期
縄文時代中期前半
 竪穴建物跡 194 棟・掘立柱建物跡 5 棟
 土坑 192 基
- (うち土坑墓 36 基、フラスコ状土坑 71 基)
縄文時代中期後半
 溝状土坑 2 基・盛土遺構 2 か所など
- <古代>
 竪穴建物跡 5 棟、掘立柱建物跡 1 棟
時期不明
 溝跡 1 条・土坑墓 14 基など

松ヶ崎遺跡第11地点遺構分布図 (R6.10.1時点)